

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】		
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと成績不振者対策の徹底	2 自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 1学期には校内を、2学期には校内・校外を対象にし、授業公開週間を設置しているが、校務や持ち時間の関係から授業見学に行く回数に限られてしまっている。 各学年における成績上位層と下位層との学力差が大きくなっている。また学習意欲が高いとはいえない生徒も散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、素直で真面目に学習に取り組んでいるが、総じて受身的、指示待ちであることが問題である。 高い進路目標を抱いているが、その実現に見合った学習時間が確保されているとはいえない。 1・2・3学年ともに学力の多層化が進展している。 		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 教科内及び教科を越えてお互いに授業見学を行い、自身の授業に生かす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自律的な学習集団を育成するための、「入り口指導」を始めとした節目指導の充実。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を高める教材の開発や授業方法について研究し、共有を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年の一体感を尊重した上で、個人面談に加えて、学力層別指導を充実させる。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者に対し、教科と学年との連携を図り早期かつ継続的に指導し、学年末の成績不振者ゼロを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自学自習時間：平日「学年＋2」時間、休日「学年＋5」時間の達成率80%以上 	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 1学期には校内での、2学期には保護者や地域に公開しての授業見学・研究会を実施する。 SSH 事業である「授業・カリキュラム開発」に、教科主任会議などを活用するなど組織的に取り組み、論理的・創造的・独創的思考力の育成を図るための授業方法の研究に取り組む。 学力差に対応した授業の展開方法や指導法について、教科内や教科間で協議研究を重ね、実践的に取り組む。 定期試験後には、成績不振者についての情報を学年と共有して教科担任による面談や個別指導を行うなど早期に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自律的な学習集団育成のため、年度当初の「入り口指導」を始めとして各学期、行事等の節目において学年集会等の集団指導を行う。 予習－授業－復習－質問の学習サイクルの確立や、毎日の自学自習開始時間とその場所の確定等、学習の仕方を面談等できめ細かく指導する。 学習に対する内発的動機付けを高めるため、SSH事業を積極的に活用し、生徒の探究心・知的好奇心を刺激する機会を増やす。 土曜講座については、学年担任団が教科担任とこれまで以上に連携し、各成績層の生徒に対応できる講座を設ける。 		
⑥評価 *栃高評価満足度%は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2学期ともに、計画通りに授業見学・研究会を実施し、研究授業を行った。全職員が、自教科のみならず他教科の授業見学も行った。SSH 事業「授業カリキュラム開発」および授業見学後の意見交換会の活性化等、さらなる授業力向上が必要である。 各教科で、新しい教材開発や授業法に取り組んでいることが、学習連絡会や研究授業見学から分かるが、まだ職員全体では共有されていない。 学習連絡会、主任会議により、成績不振者の早期発見と共有が図られ、教科担任による教科面談が行われるなど、きめ細やかな不振者指導が行えた。一方、教科によってはその指導が定期試験前後のみである等の継続性や外部模試結果から見てきた学力下位層に対する指導がさらに必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年共に年度当初の「入り口指導」を始めとして節目指導等、各学年の状況に応じた集団指導が計画的に行えている。 各学年共に学校行事等での集団指導、面談での個人指導を計画的にきめ細かく行い帰属感と学習意欲の向上に成果があったが、学力層別指導機会としての土曜講座の企画及び出席人数に課題を残した。 10月学習実態調査の結果、自学自習時間目標達成人数は増えたものの達成率80%には及ばなかった。 栃高評価①(学習の取り組みへの指導・アドバイス)生徒89%(3)(89(2))、保護者89%(8)(96(3))と例年に引き続いて高く、その結果、毎日自学自習する生徒の割合は59%(昨年56%)と増加している。 学習時間の達成率は、平日1年生35%、2年生16%、3年生35%で、休日は1年生15%、2年生8%、3年生36%であった。 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を高めるための授業の充実や教材開発を願いたい。 成績不振者への教科面談等のきめ細やかな指導の継続を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> 高い進路目標を、夢ではなく現実のものとして捉える工夫が必要。 自学自習時間確保のために「學成寮」の増設を検討願いたい。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> SSH 事業「授業カリキュラム開発」を軸とした授業力の向上。 生徒を中心とし、教科の垣根を越えた授業研究の活性化。 毎週1回の教科会議、学習連絡会、主任会議、学年会の連動連携による生徒の「見える化」、生徒状況の「共有」。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外模試等の的確な分析による、生徒の実情をよく見据えた、変化に対応できる柔軟な学力層別指導体制の確立。 予習・復習時間が必然的に増えるような授業内容の向上。アクティブラーニング等、自律的学習集団の育成を企図した授業方法の研究と実践。 		

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		【進路】【各教科】【各学年】	
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承		4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画を進路指導部で作成し、進路講演会や学問探究講義、卒業生との懇談会等を実施し、キャリア教育を推進するとともに、学習意欲の向上を目指している。 生徒への個別対応が重要性を増しており、時機をとらえた効果的な生徒個人面談を実施するために、三年間を見通した面談の内容について共通理解を図る必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内模試データによる校内ランキングの見直しや、進路指導委員会に向けての検討をさらに充実させることにより、進路指導部と担任間、および担任と生徒間の進路に関する具体的な情報のやりとりをさらに充実させる必要がある。 進路学習室や大掲示板の環境整備や、進路委員の活動を通して、1、2年生に対する情報提供もさらに充実させる必要がある。 	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 土曜講座（全員講座・希望講座）の内容の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内模試による校内ランキングの見直し、各種研究会等の適切な情報提供を通して、進路指導委員会を充実させる。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> LHRや総合学習、講演会等の進路関係行事の計画、実践により生徒の進路意識の高揚とその維持を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年次の進路検討会を実施し、志望校等についての情報の共有を図り、低学年から進路情報の提供を充実させる。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人面談の内容の充実など、進路指導のノウハウを継承していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「高大接続改革」に関して、入試改革に向けた準備を開始する。 	B
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上のために、土曜講座を実態とニーズに合わせて連続性をもって計画・実施し、充実したものにするとともに、外部へも発信していく。 蓄積された電子データ（各学年のLHRの資料や学年独自の進路関係行事の実施記録、長期休業前指導などの使用資料）を活用し、三年間を見通したLHR及び進路学習を計画・実践する。 1年次からの進路学習を充実させるため、その出発点として、多くの教員との面談を通して自己理解を深め、「進路講演会」、「学問探究講義」等を通して学問分野の選択へと繋げていく。 各学年毎にその時期の面談の意義や進路指導委員会等の進路行事の目的を明文化することにより職員間の共通理解を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内判定と校内ランキングの見直しを丁寧に行うとともに、検討会を充実させ、収集した情報を生徒の進路希望の実現、教職員の研修に生かしていく。 個別大学模試の分析や追跡調査、業者の分析報告会の情報を共有しそれをもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。 クラス担任からの入試制度等の進路情報の伝達や、進路学習室・大掲示板を活用した恒常的な情報発信、各クラス進路委員の活動を通しての進路意識の高揚など、情報提供環境を充実させる。 「高大接続改革」に関して、正確な情報収集につとめ、全職員で情報を共有できるようにし、入試改革への対応の準備を開始する。 	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体 そう思うの割合を表し、 ()は5わからない の割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価②（土曜講座の充実） 生徒 64 % (6) (76(5)) 保護者 62 % (31) (65(25)) 生徒の実態とニーズに合わせて、全員講座と希望講座を適切に組み合わせるためにさらに充実させていく必要がある。 進路関係 LHR、各種講演会、学問探究講義、先輩と語る会など、その目的を明確にしながら効果的に実施できた。 栃高評価④（3年間を見通した進路指導） 生徒 86 % (6) (84(4)) 保護者 83 % (10) (94(4)) 特に3年生の割合が例年より高く(84 % (過去5年平均 76))、3年間を通した面談の内容の充実などが窺える。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内ランキングの見直し、進路指導委員会の事前検討会、個別大学模試の分析等を通して、担任団への情報提供や支援を適切に行えた。 栃高評価⑥（進路に関する情報提供） 生徒 86 % (3) (87(2)) 保護者 87 % (6) (90(4)) 生徒の「1そう思う」は1年生で 61 % など、その割合が年々上昇してきており、情報の提供は充実してきている。 「高大接続改革」に関して、校内の検討委員会を設置し、今年度内に進められる準備について検討を行った。また、全職員の情報共有に向けて現職教育を実施した。 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 様々な面で個人面談は有効である。大変だが数多く続けたい。 土曜講座は生徒の学習意欲を高める工夫を検討してほしい。 		<ul style="list-style-type: none"> 進路指導委員会から担任・生徒への情報提供支援が確立している。 高大接続改革に関する校内検討委員会の活動を充実願いたい。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 土曜講座の実施形態（全員講座と希望講座の組み合わせ）について、学年の実態に応じてさらなる工夫をする。 LHRに限らずクラス単位で、時機を捉えた進路指導の時間が確保できるような方策を工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> 進路指導委員会に向けた準備や検討会を通して、職員間で共有する情報の質の向上に努める。 「高大接続改革」にともなう入試改革への対策を学校全体で着実に進める。 	

①重点目標	d 主体的な学習活動による健全な教養の醸成 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】		
②重点課題	5 利用の質的な向上をめざした支援体制の整備	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度には年間貸し出し数5,000冊越えの記録を達成した。また、100冊以上借りている生徒も複数いる。平成28年度は2,800冊であった。 ビブリオバトル入賞等、図書委員会中心に読書推進活動も盛んである。 調べ物の情報源が書物からインターネットへと移行しつつある中、やや知的な娯楽読み物への要望が多いが、利用者の知的水準向上を図れるような働きかけを工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動が苦手で、すすんで体を動かす習慣のない生徒も多い。 健康的な生活習慣に関する様々な情報について、生徒が十分理解できていなかったり、インターネット等からの情報を鵜呑みにして意思決定・行動選択している場合がある。 		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 年間貸し出し数3,000冊以上。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 週3日以上運動を実践する生徒80%。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 「読書アンケート」による実態把握及び運営方針・サービス内容の適正化。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会を活用した「保健だより」の発行と健康的な生活習慣の理解。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 読書推進活動の充実による図書館利用促進と質の向上。 	C		
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「読書アンケート」を実施、利用者の読書の実態や目的を踏まえ、理想的かつ現実的な図書館サービスを進める。 教科指導とのタイアップ、「としょあんない」等の印刷物、図書委員会活動の充実、イベント、ホームページ、展示方法の工夫等を組み合わせ、利用者の読書の質の向上を図る。 「文献引用シート」の作成と活用を促進する。 以上の取組を通し、年間貸し出し数3,000冊以上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や体育的行事等で運動の楽しさやその効果を実感させ、運動を習慣化するよう指導する。 健康的な生活習慣に関して、教科での指導とともに「保健だより」を活用して正確な情報を提供し、運動・栄養・休養について正しい意思決定・行動選択の実践ができるよう指導する。 		
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1と思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す < >・・・昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑦(読書活動を活発化するための支援) 生徒 32 % (9) <32 (6)> 保護者 32 % (35) <44 (25)> 生徒満足度は横ばい、保護者満足度低下、「わからない」割合が生徒・保護者ともに上昇。 貸し出し冊数は昨年並みのペースで推移。 力強い支援が得られ、工夫して対処できた。 保護者への PTA 会計決算報告のうち、図書購入費の報告が粗く詳細が把握できなくて「わからない」が上昇した。 図書館利用の重点が「読書」から「調べ学習」へとシフトしてきており、「読書活動の活発化」のなかに「調べ学習」は含まれるのかということが不明であり「わからない」が上昇した。 	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑧(健康的な生活を送るための指導) 生徒 61% (7) <57 (5)> 保護者 73% (15) <83 (9)> 運動実施状況 週3日以上1年生 67%(昨年比+1%)、2年生 53%(昨年比-4%)、3年生 41%(昨年比+1%)、3学年の平均は55%(昨年比±0%)で、2年生は実施率が低下し、2、3年生は全国平均値を下回った。 保健委員を活用し、それぞれの行事や生徒の健康課題に応じた「保健だより」を継続的に刊行するとともに、ホームページ等への掲載も行った。 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 読書を勧め、その重要性を理解させる方策を検討願いたい。 限られた予算の中で成果をあげており取組に評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の健康な生活が送れるよう、生徒が興味・関心を持つ内容の指導を願いたい。健康への高い意識づけを継続的に進めてほしい。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 元々あった図書館会計決算書をPTA配布資料につける。 「調べ学習」に重点を置いた評価基準を新規設定する。 生徒の図書委員会活動は活発であり成果もあがっているので、一層活躍できるプランを立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健や体育での授業を通じて、運動と健康との関係について理解させるとともに、運動の習慣化を図る。 「保健だより」の内容をより多くの生徒に活用させ、健康についての意識を高めるよう指導する。ホームページ等への掲載も継続する。 		

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導 【特活】			
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施	8 学校行事、部活動、体験活動に全力的に取り組むための環境整備		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり全員参加による学校祭を企画している。昨年は雨天の影響もあり前年度の来場者数に及ばなかったが、ほぼ目標を達成することができた。これは本校の学校祭が地域や保護者などから一定の評価が得られている結果であると推察できる。今後は単に入場者数だけではなく、学校祭としての更なる質の向上をめざしていく取り組みが必要になると思われる。 昨年は台風による臨時休校や始業式と学校祭当日との間隔の狭さなどで準備が遅くなり、校内公開の完全実施には至らなかった。 			
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> クラス企画における質の向上に向けた実行委員会と文化委員及び関係職員との連携を強化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して部活動加入率80%を維持する。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 準備時間を確保し、校内公開の完全実施を達成する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 移動教室（スキー・スノーボード）80名、ボストン海外研修30名の参加目標人数の達成。 	A
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員を教職員全体で把握できるように体制を整備する。 実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。 クラス企画が準備段階から計画的に取り組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに、文化委員と担任との関わりを充実させ校内公開、一般公開を成功させる。 実行委員会だけでなく、各種専門委員会の生徒会組織全体を機能させ、学校全体を活性化させる。 本校ホームページを活用し、学校祭プログラムを事前告知し、情報発信に努める。 			
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑩（学校祭の充実） 生徒 93%(3) (93(2)) 保護者 97%(1) (100(0)) 入場者3,247名 昨年度2,624名 [27年度3,701名 過去最高] 平成27年度の来場者数には及ばなかったが、3,000名を越える来場者であった。例年と同様に生徒、保護者の満足度も高く充実した学校祭であったと言える。 クラス企画の質の向上についてはさらなる改善の余地がある。 今年度は学校祭当日まである程度の時間は確保できていたが、かえって準備に取りかかるのが遅くなり、結果として校内公開の完全実施には至らなかったのは残念であった。 			
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 企画・運営も重要だが全体に趣旨が徹底され質の向上を目指してほしい。保護者の期待も大きく支援の継続を願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の事前指導が良い。将来有意義な事を数多く経験できる。 県庁堀清掃は県庁堀内設置の学校として是非継続実施願いたい。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭に向けて早期の意識付けをはかり、速やかに準備に取りかかれるように支援する。 退部や転部をした生徒の実態把握に努める。 			

①重点目標	g 規範意識と自主性の向上	【生徒指導】		
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上	10 校内生活における規範意識の向上		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 各教科やホームルーム、学校行事等において、生徒自身が安全な交通社会の主体となる指導を実践している。 学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成につながることを理解させ生徒指導を実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに存在感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員の共通理解に基づき、その時、その場での指導を実践している。 		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故発生ゼロを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ発生ゼロを目指す。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の苦情昨年比50%減を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話等使用規定違反生徒昨年比50%減を目指す。 	B
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故防止については、生徒自身が、被害者にも加害者にもならないことを目指し、保健の授業や交通安全講話、HRでの注意喚起など、教育活動全体を通して指導する。 教職員、生徒会交通委員やPTAが街頭指導等を含む交通指導を行い、交通マナーの向上と事故防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士がお互いの良さを認め好ましい人間関係を築き、いじめが起こりにくい集団づくりの指導をする。 定期的に学年主任、各部長間で不応適傾向の生徒について情報交換を行い、職員間での情報共有と迅速な対応に努める。 「生活アンケート」や「QUテスト」の実施とその結果の効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握に努める。 携帯電話等使用規定をはじめとする校内規定の遵守については、内面的な自覚を促し、自主的にマナー向上に努めるように指導する。 		
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、 ()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑫（交通ルールの遵守やマナーの向上） 生徒79% (4) <75(3)> 保護者 83% (13) <90(5)> 交通事故発生4件。昨年比±0件 (29.4～30.3月) 4～6月に3名の1年生が交通事故に遭った。 交通委員の活動やPTAの積極的な協力が目立った。 交通関係苦情と通学マナー苦情の2件。 昨年比-1件 (29.4～30.3月) 職員、生徒による定期的な街頭指導を予定通り実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑬（生徒の規範意識を高めるための指導） 生徒 82% (5) <77(3)> 保護者 84% (14) <93(4)> 栃高評価⑭（携帯電話のルールの遵守と情報モラルの向上） 生徒 84% (14) <79(2)> 保護者 83% (11) <85(5)> いじめ発生2件 昨年比±0件 (29.4～30.3月) 本校のいじめ防止基本方針に基づく行動計画により、いじめの正確な認知と組織的な対応で早期に解決することができた。 携帯電話等規程違反生徒13名指導。昨年比-9名 (29.4～30.3月) 携帯電話等への依存傾向が強い生徒が増えている。また、SNSへの軽率な書き込みについての指導が目立つようになった。 人権教育係とタイアップしネットトラブル防止に関する講話を実施することができた。 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 頭では理解していても実践できない生徒をどう指導するかが課題である。生徒による街頭指導も定期的に必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任・教科担当・部顧問との情報交換を密にすることが大切。 ネットトラブル対応は学校と保護者が協力した取り組みが必要。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 4～6月に3名の1年生が交通事故に遭っている。入学直後から1学期中は、1年生に対する注意喚起が特に必要である。 交通マナーに関する苦情は年度当初や夏季休業後に多いので次年度は特に留意したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ネットトラブルの未然防止、早期指導について、生徒指導の場面だけでなく、各教科、特別活動など学校全体で指導に努める。 		

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み 【保健厚生】	i 広報活動の充実 【渉外】【教務】		
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善	1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 清掃や教室周辺（特にロッカー上）の整頓がクラスによって不十分である。 ゴミと資源の分別回収は概ね良好であるが、可燃ゴミ量を減少したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「PTAだより」を年2回発行している。 PTA評議員会を年4回開催している。 PTA総会、PTA支部会、学年研修会において進路・学習・生徒指導等の取り組みや現状についての情報提供を行っている。 「校報」を年4回発行している。 一日体験学習募集ポスターの送付を行っている。 中学校訪問用持参資料の作成と中学校訪問を実施している。 ホームページの定期的な更新を行っている。 		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル活動を促進し、可燃ゴミの量を月平均900kg未満を目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有を深めるため「PTAだより」の内容の充実。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ロッカー上など教室周辺の清掃を徹底し、定期的に行う環境チェックでの指摘ゼロを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や教員及び保護者への説明会開催を目的とした中学校訪問校数30校。 	B
			<ul style="list-style-type: none"> ホームページの月間アクセス数38,000件。 	A
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ分別と古紙回収を推進するため、分別等の表示や掲示を工夫し可燃ゴミの量を減少させる。 環境美化委員会を中心に、定期的に教室周辺の学習環境をチェックする。生徒指導部とも連携してロッカー上の私物散乱等の指摘をゼロにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「PTAだより」の内容を見直し、新たな構成を検討する。 積極的な中学校訪問活動を実践する。 中学校訪問の時期・内容・対象・地域の再検討を行う。 ホームページ上での一日体験学習への案内と実施内容をさらに充実させる。 定期的なホームページ更新講習会を実施する。 		
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 % は 1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は 5わからないの割合を表す < >…昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑮（環境美化とゴミの減量化、リサイクル運動の推進）生徒 60%(6)〈58(6)〉保護者 50%(34)〈54(29)〉 定例の教室環境チェックを実施した。ロッカー上の私物については指摘がなく、全体的に清掃の状況も向上し、数年前と比較すると学習環境が整いつつある。 外来者が来校する際の清掃状況は改善し、苦情や指摘されることはなかったが、昨年よりグラウンド・体育館周辺に残されている落ち葉の量が多い。 可燃ゴミ合計量14,472kg(月平均1,315kg/月・29.4～30.2月)であった。合計量は昨年同期と比較すると増加した。これは、生徒用椅子(木材)の廃棄の影響もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「PTAだより」に学校の魅力を伝える写真掲載を増やした。 中学校訪問は、昨年度と同様に栃木市や小山市等の近隣の中学校の他に宇都宮市・佐野市・足利市・県外中学校を重点に77校に打診し、19校に訪問することができた。昨年度より2年生の参加人数が35名から83名に増加した。参加した中学生や保護者からの反応は良好で訪問した生徒・保護者への十分なPRとなった。 ホームページのアクセス数は、29.4～30.3月の平均で38,600件/月。昨年度の45,000件/月からは減少したものの、上半期(～8/31)の1,250件/日→下半期(～3/22)1,400件/日と増加かつ高水準を維持した。地域や保護者への情報発信として重要な役割を果たしていると言える。 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校環境は良くなっている。清掃や整頓の指導の継続を願う。 可燃ゴミ合計量が増加傾向にある。ゴミの減量化に配慮。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問は本校志望者の増加に大変有意義であり、その努力を評価する。何を「栃高の魅力」として発信するか再度検討を願いたい。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化委員会によるリサイクル活動を継続し、ゴミの減量を図る。 教室や廊下、ロッカー上の整理整頓や清掃のみならず、校舎外についても HR 担任や清掃監督者と連携して適切に清掃を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「PTAだより」の内容充実を継続する。 中学校訪問は、生徒・保護者へのプレゼンと教員への情報交換の形態の併用を検討する必要がある。 ホームページの活用を全職員が認識し、学校行事や大会等の結果の書き込みの習慣化を図り、質量併せたさらなる充実に努める。 		

①重点目標	j 国際社会で活躍できる有為な人材の育成 【SSH】	
②重点課題	1 3 課題研究指導方法の確立	
③現状	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ体制を敷き、ルーブリック、生徒間の相互評価等を導入することで生徒の作品の向上は見られたが、全体的に時間的な余裕はない。 研究内容が生徒自身の進路との整合性に乏しく、高大接続という観点で見直す必要がある。 課題研究においてJSTからの支援を効果的に得られていない。 	
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 校内発表会で2年生全員の発表を実現する。 	C
	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究へのJST支援件数を増加させる。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究における外部機関との連携を実現させる。 	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリックを年度末に見直す。 相互評価の時間を50%増しにして、思考する時間と、指導する時間を十分に確保する。 生徒が調査研究に携わる時間を夏期休業中以外に確保する。 J-STAGE, J-Dream3 の効果的な利用法を模索し、生徒が活用でき環境を構築する。 職員はもとより、課題研究にあたる生徒にもJSTからの支援を得るための条件を具体的に示し、有効な資金活用を促す。 外部研究機関との連携をマニュアル化するとともに、適切に管理する。 	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し、 ()は 5(わからない)の割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究Ⅱで発表会における全員の発表のための具体的な取り組みのうち、ルーブリックの見直しはできたが、十分な時間の確保は実現できなかった。結果として発表数は昨年度の2倍程度にはなったものの全員発表には到らなかった。 書籍の準備はできたが、論文の供給体制は不十分である。 生徒からの JST への支援要求は増加した。今後も積極的に要求できる体制を整えたい。 外部機関との連携体制は整えたが、利用件数がゼロであった。 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 学習や進路意識のための動機づけとなってほしい。 多文化共生社会に対する意識を高める方策も検討願いたい。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 部内での企画調整を前年度から綿密に行うことが重要である。 「J-STAGE, J-Dream3 を積極的に活用できる環境の構築」を図書館部とのタイアップで実現を試みる。 	